

平成30年度第1回香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会

○ 平成29年度の進捗状況シート

平成30年8月7日開催

基本目標1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○農業の分野では、担い手の確保、生産基盤強化により、一次産品の安定生産の体制づくり、生産量増加、市の総生産額の増加へとつなげていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
新規農業者数	7人/年	実績値 7人/年 目標値 12人/年	15人/年

【直近の成果 (アウトカム等)】 新規農業者数 H30年3月末 7人/年 (Uターン4人、Iターン3人)
※平成29年度新規就農者集計表 (平成28年4月1日～平成29年3月31日に就農した者) 高知県中央東農業振興センター調べ

1. 取組状況 (H29年度)

平成30年3月末現在

- ☺ 新規就農者として、本年度は7人が営農を開始。目標達成には至らなかった。
- (1) 農業の振興
 - ① 農業生産基盤の充実
 - 農業基盤整備促進事業において、老朽化した頭首工他の整備 (3箇所) を予定していたが、未採択のため未実施。結果、進捗率は昨年度と同じ30.2%のままである。
 - ② 治水・利水整備の促進
 - 工業用水道条件整備 (水路2件・道路1件) は予定通り完了。事業の進捗率は90.0%となる。農業集落排水整備事業 (水路2件) においては全て完成。事業の進捗率は60.6%となる。
 - ③ 担い手対策の促進
 - ☺ ● 新規就農者や規模拡大農家に対して園芸用ハウス建設の助成を行う、園芸用ハウス整備事業を実施。中古ハウス3件、新規ハウス10件が完成。整備面積は20,661㎡で予定 (面積15,000㎡) 以上に図られており、中古ハウスは農業者、新規ハウスは土佐香美農協が事業主体となり、連携を密に事業は順調に実施。
 - ☺ ● ハウス園芸作物の収量向上のため、炭酸ガス発生装置等の導入に対する経費の一部を助成する環境制御技術普及促進事業を実施。本年度より対象者を見直し、団体 (組織) でなく個人でも申請できるように要綱を改正し、27戸 (58件) が利用。目標の30戸に対し、事業は順調に実施中。
 - ☺ ● 新規就農推進事業の親元就農応援区分 (農家子弟をUターン就農させて研修を行うとともに経営体の改善や発展に取り組む認定農業者等への支援の実施) では、4月から2人、8月から1人が研修を開始。合計3人で目標は達成。しかし、専業農家育成区分 (就農希望者を研修生とし、地域で活躍される先進農家において実践的な研修の実施) では、目標4名に対し3月から1名の研修開始のみ。
 - ☺ ● 本年度新たな取り組みの、農業経験のない者に対し研修を受け実践的な能力をつけてもらう、担い手育成センター研修支援事業では、4名に研修に係る費用の支援を行った。(目標10人) その内、3名が研修を終了し、親元で研修を実施。また1名は先進農家へ研修に入った。
 - 就農直後の不安定な経営に対して後継者の方に補助を行う、農業後継者推進事業を実施。目標15人に対し、13人へ支給を行った。
 - ☺ ● 本年度から名称を変更し実施している、農業次世代人材投資事業 (経営開始型) (旧：青年就農給付金事業) については、目標8人に対し16人に支給し、目標を大きく上回った。
 - ④ 農産物ブランド化の推進と加工品の開発
 - 産業振興推進総合支援事業において、エメラルドメロンの販売力向上とニラの産地力強化、流通・販売力の強化に取り組んでいる。エメラルドメロンは428,435千円 (目標425,000千円) で目標値を上回ったが、ニラが1,029,042千円 (目標1,230,000千円) と目標を下回った。(園芸年度の9～8月で集計)
(※H28年度実績：メロン販売額407,528千円、ニラ販売額1,399,322千円)
 - ☺ ● 香南市農業活性化協議会を4月に設立し、6次産業化・加工品開発部会と地産外商会をそれぞれ10回開催。山北ミカンを使った商品開発に取り組み、5件の商品開発を行い、その内「山北みかんバター」「山北みかんかき氷」の2件の販売を開始した。(農山漁村振興交付金を活用)
 - ⑤ 消費者の安全安心志向への対応
 - 地産地消推進協議会事業により、耕作放棄地を利用した学校給食米の栽培を実施し、24.2t順次納品。耕作放棄地の解消につなげている。(H28年度：4.2ha→H29年度7.2ha)
 また、学校給食市内野菜 (主要品目) の利用率向上に向けた取り組みを順調に実施しているが、天候不良で野菜が希少となり、地元産食材の利用率は約30%と目標値を下回った。
 - ⑥ 中山間農地の保全と活用の促進
 - 中山間地域等直接支払事業により、農業生産条件が不利な地域において支援強化を行う。参加協定団体も昨年度より3組織増え、11組織となり、面積も18,714㎡増加の634,345㎡となった。
 - ☺ ● 鳥獣被害対策担当として10月から地域支援協力員を1名雇用。被害防止柵は延長9,026mを設置。有害鳥獣被害対策事業として、目標 (500頭羽) 以上の742頭羽を捕獲。
(イシシ217・シカ210・カラス60・タヌキ200・ハクビシ39・アマガマ13・サル3)



2. 課題と今後の取組

☺ 来年度は、農業大学校の学費の助成や、実践型研修ハウスの整備を行い、担い手対策の促進に努める。また、引き続き新規就農者が増えるよう就農支援や補助制度の充実を図る。

(1) 農業の振興

- ① 農業生産基盤の充実
 - 未完成事業の施工実施に取り組む。
 防災関連事業が優先となり、計画どおりの予算割り当てが厳しい状況であるが、引き続き、県などに要望・陳情を行う。また、別事業の農地耕作条件改善事業で未採択であった頭首工の整備が採択されるよう要望し、採択後はスムーズに事業実施されるよう地元調整を進める。
- ② 治水・利水整備の促進
 - 引き続き地元協議調整を行いながら、要望箇所の早期竣工に向け計画的に進めていく。
- ③ 担い手対策の促進
 - 来年度は、新規就農者への補助率をアップし、施設園芸農業の一層の振興を図る。
 - 環境制御技術普及促進事業は、H30年度が補助金最終年度となっているが、次年度も残してもらうよう県に要望をあげていく。
 - 概ね予定どおり事業は実施出来ており、H30年度は2名が親元での研修が終了し独立自営を開始する。引き続き広報などでの補助制度の周知を継続し、新規就農者の確保と育成を図る。
 - 4名のほかに3件の就農相談があったが、受講には至らなかった。引き続き、広報などでの補助制度の周知を継続し、農業後継者への補助と育成を図る。
 - 引き続き事業の周知と取り組みを継続していく。また、技術面で不安定な者もいるため、振興センター・J Aと連携し指導を続けていく。
 - 目標数値は達成できているが、給付終了後、農地の管理ができていない者がいるので指導を行う。
- ④ 農産物ブランド化の推進と加工品の開発
 - エメラルドメロンについては、引き続き、増収、高品質生産向上対策、生産コスト低減技術により生産性強化を図るとともに、ブランド力の強化、有利販売につながる、知名度・販売力の向上対策を実施する。ニラについても、高温対策技術の確立や雇用労力確保、規模拡大など生産上の対策を実施するとともに、流通・販売上の対策を実施し、ともに販売額を伸ばしていく。
 - 引き続き、香南市農業活性化協議会をはじめ関係機関と連携し農産物ブランド化の取り組みを進めていく。また、8月までに販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加につなげる。
- ⑤ 消費者の安全安心志向への対応
 - 来年度以降も、耕作放棄地を利用し学校給食米の栽培面積を拡大する。(H30年度は11ha)
 また、拡大にあわして、保育所への米の供給をH31年度から開始する。
- ⑥ 中山間農地の保全と活用の促進
 - 中山間地域等直接支払事業による新規協定数や面積の増加に向け、地区説明会や広報周知を実施する。
 - カラス等の鳥類については駆除を行うものが少ない。被害対策協議会等各地区の狩猟代表者が集まる場において駆除への協力等を要望していく。

平成30年度の新たな取組

- NEW** ① 担い手対策の促進として、農業大学の学費の助成を行う、**農業大学校就学助成事業**を実施。
- NEW** ② 新規就農者の確保および育成を図る**実践型研修ハウス整備事業**を実施し、3棟のハウスを建設する。
- 拡充** ③ **園芸用ハウスの整備事業**の補助率をアップ (補助率1/6→1/3) し、施設園芸農業の一層の振興を図る。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○林業の分野では、生産性向上と森林の保全・活用に加えて、森林資源を活用した所得の向上と雇用の創出を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
森林境界明確化面積	188ha	実績値 0 ha 目標値 150 ha	600ha 以上 (累)

【直近の成果 (アウトカム等)】 森林境界明確化面積

※高知県等関係機関との調整において、翌年度以降の事業実施に変更となり、本年度は未実施。

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

(2) 林業の振興

森林境界明確化事業 (団地化及び境界明確化) は、夜須町仲木屋地区 (35ha) で事業を予定していたが、高知県等関係機関との調整において、翌年度以降の事業実施に変更となり、本年度は未実施。

① 森林の多面的な利活用の促進

- 林道道路側溝整備事業 (4 事業) を実施。事業は順調に進めることができ、全て完了。
- 緊急間伐総合支援事業を実施。ほぼ目標どおり実施しているが、事業実施に伴う地権者との交渉が困難となっており、規模は縮小となっている。
 - 切捨間伐 (計画 10ha) 夜須町羽尾・沢谷 【実施 23.98ha】
 - 保育・搬出間伐 (計画 30ha) 香我美町撫川・舞川 (団地化) 【実施 22.45ha】
 - 作業道整備 (計画 2,800m) 香我美町撫川・舞川 【実施 1,247m】
 - 人工造林 (計画 3ha)、被害防護ネット (1,000m) 香我美町別役 【実施 2.71ha、887m】

● 森林整備地域活動支援事業の森林経営計画は実施できたが、その他の 3 事業は関係機関との協議により年度内の事業採択が難しく本年度は実施できなかった。

- 森林経営計画 (計画 100ha) 香我美町舞川 【計画作成 98.3ha】
- 森林所有者境界明確化 (計画 35ha) 夜須町仲木屋 【未実施】
- 施業集約化計画 (計画 5ha) 香我美町奥西川 【未実施】
- 条件整備 (計画 作業道の改良 5ha) 香我美町撫川・舞川・奥西川 【未実施】

● 森林・山村多面的機能発揮対策事業は、「森と緑の会」に補助金を交付。里山林の保全管理や竹林の整備、地域の活性化を目指した取り組みをに生かされている。

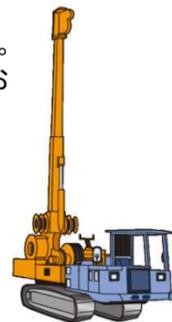
● 林地台帳整備事業は整備完了。森林整備に必要な基礎情報を林地台帳として整備し、森林情報の確認・提供および地図の公表が可能となる。

● 水源の森整備事業を実施。計画どおり事業は実施ができた。

- 搬出間伐 (計画 5ha) 香我美町撫川 【実施 5ha】

● 森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) として、タワーヤーダと脱着式コンテナを導入。タワーヤーダについては、林内で伐倒した木材を架線によって集材する機能を持っており、元柱を設置する必要が無く、仮設・撤去作業の大幅な時間短縮が可能となる。

- タワーヤーダ 【完了】
- 脱着式コンテナ 【完了】



② 森林の活用 (木質バイオマス利用促進)

● 農業ハウス用ペレットボイラー数は、現状 2 基を継続使用。木質バイオマス利用促進事業については、6 月末に全体協議会が開催され、木質バイオマスボイラーの導入状況及びペレット需用状況とバイオマス発電の稼働状況など協議を行った。

2. 課題と今後の取組

(2) 林業の振興

事業主体の香美森林組合と連携調整を図り、平成 30 年度は香南市で事業実施されることとなる。なお、事業がよりスムーズに進むよう、事業の同意者を増やしていく。

また、山の所有者に「山の持ち主」であることを意識してもらうよう PR と所有をお知らせする文書の送付等のとりくみを実施する。

① 森林の多面的な利活用の促進

- 新たな箇所、引き続き林道道路側溝整備事業を実施し、林業生産基盤の充実を図る。
- 緊急間伐総合支援事業については、引き続き地権者に事業の説明を行い、理解と同意者を増やしていく。
- 森林整備地域活動支援事業については、夜須町沢谷で境界明確化 (76ha) と作業道の改良 (36ha) を実施予定。規模が縮小とならないよう、地権者に事業の説明を行い、理解と同意者を増やしていく。
- 森林・山村多面的機能発揮対策事業は、引き続き、林野庁の国庫補助金減額分を県と補助していく。
- 平成 30 年度よりシステムを活用しての運用が開始される。継続して森林情報の収集に努め、森林調査や境界測量に活用していく。
- 水源の森整備事業については、平成 30 年度の事業予定はないが、香美森林組合から要望があれば協議のうえ事業実施していく。
- 森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) として、8 t ベース・グラップル付トラック (1 台) とプロセッサ (1 台) を導入予定。



② 森林の活用 (木質バイオマス利用促進)

● 導入当初に比べ原油価格も下落したことなどにより、年間燃料費の大幅なコストダウンには至っていない。今後は、機器の耐用年数の問題も発生するなど利用者の意向とあわせて、近隣市町村と連携して取り組む。

平成 30 年度の新たな取組

継続 ① 林業生産基盤の充実を図るために、林道道路側溝整備事業を活用し、新たな箇所 (4 箇所) で復旧工事や清掃事業、舗装工事を行う。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要	○生産基盤充実や後継者育成支援、観光産業との連携を推進し、資源回復と経営力の強化により稼げる水産産業を目指します。
目的	○農業・水産業における加工・流通・販売体制を強化するために、水産加工品の付加価値向上を図り、農業、水産業における加工・流通・販売体制を強化、香南市ブランドの展開や販路拡大を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
沿岸漁業総生産量	1,313 トン	実績値 839 トン 目標値 1,200 トン以上	1,200 トン以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 沿岸漁業総生産量 H30 年 3 月末 839 トン
 手結 337 トン (前年比 64%)・赤岡 316 トン 計 502 (前年比 300%)
 吉川 186 トン

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

☺ H29 年度の沿岸漁業総生産量は 839 トン (目標値の 69.9%) と目標を大きく下回っている。目標数値の達成は困難だが、昨年度実績 (693 トン) は上回ることができた。また、漁獲量も 2 億 9276 万円 で前年度の 1 億 6478 万円 より、大きく上回り (前年比 177.7%)、所得の向上は図れた。

(3) 水産業の振興

① 漁港の改修・整備等の推進

●漁港施設の老朽化に伴い、計画的に漁港の保全・改修整備を行っている。
 改修整備率は、25.0% (目標数値 30.0%) であり、概ね予定どおり事業実施できた。特に、住吉漁港東防波堤保全工事は数年来施行できず課題となっていたが、工法再検討により完成することができた。

② 漁業経営の基盤強化

●老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備は当初予定していなかったが、関係機関と協議において本年度は 5 箇所の整備改修を行った。そのうち、4 箇所 (吉川漁具倉庫パドピソ等設置工事、赤岡水産機能施設荷捌施設防水工事、手結支所活魚スペースのフェンス及びグレーチング取替工事、赤岡水産機能施設荷捌施設排水施設修繕) が完成。

③ 漁場の保全

●手結地区藻場保全活動として食害生物 (ウニ) 駆除 (2 回) を実施。しかし、食害被害の (魚) 駆除および母藻の設置は天候の関係で実施の調整がつかず未実施。
 モニタリングの結果、除去地区の海藻類育成被度は、52% だった。
 ●赤岡・吉川地区の掃海活動は例年どおり年度末に実施。

④ 観光漁業の推進

☺ ●地引き網漁業について、赤岡に 1 経営体あったが、後継者がいないことから昨年度より休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取り組みを関係機関と行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な取り組みはまだ見えていない。
 遊漁船については、観光協会と連携し HP のリニューアルを行った。

⑤ 水産加工品流通販売の推進

☺ ●販売先の拡大などにより、4,426 万円と販売金額は大きく目標 (1,500 万円) を達成。

(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化

① 地産地消の推進

☺ ●学校給食へのシイラ加工品の納入回数は 23 回。(目標 11 回) また、地産地消の推進及び体験学習として、水産業の学習 (野市小) を延 3 回、釜揚げ体験・食育学習 (赤岡世代間交流) を 1 回実施。
 ●シラスの学校給食への納入に向けて事前調査を実施。

② 加工・流通・販売などの体制を強化

●手結加工場において、繁忙期に 1 名の雇用を行ったが、新たな雇用はできなかった。

☺ ●新規漁業就業者の確保について、募集を行っているが希望者はなかった。



2. 課題と今後の取組

沿岸漁業の総生産量は好漁、不漁の関係も大きく影響するものであるが、今後は生産量とともに漁獲量の実績も把握を行っていく。

また、現在のシラス流通状況等の情報収集を行い、生産から販売までの過程で必要な対策を掘り起こすために、シラス漁における所得向上対策の検討、協議の場を設ける。

(3) 水産業の振興

① 漁港の改修・整備等の推進

●国庫補助事業であるため、予算配分により整備率は上下することもあるが、老朽化判定 A とされている施設の中でも優先度を決定し事業を実施していく。引き続き漁港施設の機能保持のため計画に沿った保全工事を実施することと、県管理の港湾、漁港、海岸事業への施設整備の継続要望を実施する。

② 漁業経営の基盤強化

●赤岡水産機能施設荷捌施設ホイスクレーン設置工事は地盤調査の追加により繰越しての実施となる。引き続き、漁業関係者の意見をもとに、機能保持のための改修、整備を継続的に実施する。

③ 漁場の保全

●モニタリング結果から、小型一年性を海藻等は以前より確認されているが、ホンダワラ類の大型海藻の育成のため、母藻設置は継続していく必要がある。引き続き、食害被害のウニ・魚類駆除の継続実施と、母藻が現場海域の水質に適したものか検証していく。
 ●掃海活動については、今後も継続して事業実施に取り組んでいくが、夏期の実施に向けて調整する。

④ 観光漁業の推進

●地引網漁業は、漁業権の関係で漁業者が実施することが絶対条件になるため、再開に向けて市や漁協等が支援できることの整理を行う。

⑤ 水産加工品流通販売の推進

●平成 30 年度以降の手結加工場の販売金額目標を増額 (1,500 万円→3,000 万円) し、一層販売の推進を図る。

(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化

① 地産地消の推進

●シイラ加工品の学校給食への納入増加に伴い収益の増加につながっている。引き続き、普及啓発と食育授業、体験学習の継続及び強化を図る。
 ●シラスの給食食材としての納入については、事前調査を参考に各種条件等の整理とサンプル品評価や納入に向けた加工業者との協議 (意向調査等) を実施する。

② 加工・流通・販売などの体制を強化

●来年度、手結加工場に保冷車を購入し、加工品流通販売の一層の推進を図る。
 ●引き続き漁協の就業アドバイザーと連携を図り、漁業の魅力や支援事業を PR していくが、市内主要漁業形態は 1 人での漁業就業は難しいため、企業に雇用される新規漁業就業者 (雇用型) の支援についても PR していく。また、移住促進 (U・I ターン) を地域支援課と連携し、移住フェア等にも参加していく。

平成 30 年度の新たな取組

- NEW** ① 海岸堤防の地震津波対策の検討の基礎資料とするため、**吉川漁港海岸堤防耐震調査事業**を実施。
- NEW** ② 水産加工品流通販売の推進として地場水産加工品等推進事業を活用し、保冷車を購入 (手結加工場)。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する

基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する

概要
目的 ○商工業の分野では、既存企業への育成支援、地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを推進するなど、ものづくりからの雇用拡大と地域の賑わいを創出します。
○6次産業化による新産業の創出では、生産者が付加価値を生み、産業を活性できる仕組みづくり、及び関係機関と連携し、補助事業の活用等を含めて支援していきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
製造品出荷額	407 億円	実績値 371 億円 目標値 500 億以上	500 億円以上

【直近の成果 (アウトカム等)】

製造品出荷額

※H29 年度の実績値は、H29 工業統計調査の公表金額。(調査対象期間：H28 年 1 月～12 月)

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

(1) 商工業の振興



- 製造品出荷額は、371 億円 (H29 工業統計調査) と、目標数値には至らなかった。
- ①企業誘致の促進
 - 香南工業団地整備事業により整備された区画の早期完売の取り組みを実施。残り 1 区画 (約 1.6ha) については、みすまる加工 (株) に分譲が決定し、全 5 区画の企業誘致ができた。また、団地内への新規立地件数は (株) 泉井鉄工所の 1 件で、12 月 21 日に事業開始。
 - 川谷刈谷第二工業用地の分譲を昨年度から開始。
- ②既存企業の育成・支援
 - ルネサス社より高知工場の閉鎖時期を平成 30 年 5 月末にすると発表があり、この間ルネサス従業員の雇用確保および事業承継先の確保について協議を重ねた。
(ルネサスプロジェクトチーム 2 回・ルネサス東京本社 5 回・ルネサス高知工場雇用対策連絡会議 2 回・ルネサス関連企業訪問 2 回)
 - 香南市ものづくり会において、会員企業の現状と課題の把握、また今後の支援施策に反映させるべく、企業訪問 (3 社) を実施。懇談会については、参加できる企業が少なかったため未開催。
 - 支援事業について、市 HP へ掲載、企業交流会での説明、県内 3 大学や企業を訪問し周知を図った。産業人材育成事業の申請が 1 件。(目標 5 件) (補助要綱を本年度から一部改正し対象事業を拡大。)
 - 未来人材育成奨学金返還助成支援事業 (目標 10 人) およびインターンシップ支援事業 (目標 10 件) は、問い合わせはあったが申請はなかった。
香南市緊急融資保証料補給金事業において、10 件の利用実績。
- ③魅力ある商業地・商店街づくり
 - 商工会商業部会で「香南市バル実行委員会」を設置し会議を開催。(9/21、11/15)
- ④空き店舗の活用
 - H28 年度に空き店舗対策事業費補助金交付要綱を制定し、市の HP への掲載や市内金融機関を訪問して事業説明を実施した。目標 2 件に対し問い合わせは 3 件あったが、活用には至っていない。
 - 商工会商業部会で「事業継承、空き店舗対策の調査研究にかかる委員会」を設置し、委員会を 4 回開催。また、チラシを作成し金融機関や不動産会社へ配布を行った。
- ⑤新規企業の育成支援
 - 香南市香我美町立地企業交流会において懇談会を実施 (7/19 8 企業 13 名) し、要望のあった陸上自衛隊高知駐屯地との交流会および講演会を開催。
- 創業支援利子補給金事業として、申請目標 3 件に対し 2 件の実績。
また、ワンストップ窓口を設置 (商工水産課と商工会) し、創業したい方の創業準備段階に応じて必要な支援機関やアドバイザーにつなぐ体制を整えた。(相談件数：商工水産課 0 件、商工会 32 件)



(2) 6次産業化による新産業の創出

- ①魅力ある新商品の開発
 - 昨年度、特産品を活用した氷菓や焼き菓子類を製造販売する加工所兼店舗「フルーツアイスパー専門店 & イーツカフェ「mana mana」」が開店。アイスオレンジ (かき氷) 及びランチメニューの開発とモーニングサービスを開始。
ハローワークに求人を出しているが応募はなく、店頭販売や外販活動を円滑に行うために必要な人材の確保ができず、売上は 16,356 千円と昨年度実績 (10,628 千円) を上回っているが、目標の 51,022 千円には至らなかった。

2. 課題と今後の取組

(1) 商工業の振興

- ルネサス高知工場の事業撤退の影響は大きいですが、目標値を下方修正するのではなく、目標値を達成するよう既存企業と新規企業の育成・支援を図る。
また、製品 PR や消費者の反応を知るために、市外商業施設内で生産者による店頭販売を実施する。
- ①企業誘致の促進
 - 香南工業団地については、団地内及び周辺環境整備や適切な維持管理に努める。
 - 川谷刈谷第二工業団地の分譲については、引き続き公募を行うとともに、工業用水を活用する可能性の企業にアプローチしていく。
- ②既存企業の育成・支援
 - 高知県と連携し、事業継承確保に努めるとともに、離職された方々の早期就職に繋がるようハローワークや産業雇用安定センター等の関係機関と連携して雇用支援に取り組む。
 - 香南市ものづくり会においては、企業訪問を継続して実施する。また、懇談会が開催できるよう交流会の内容や開催時期等についてアンケート調査を実施、参加企業の参加者数増加を図る。
 - 支援事業については、引き続き広報活動を積極的に行う。あわせて中小企業庁の「施策マップ」に登録し、一層事業の周知を図る。また、産業人材育成事業については、補助対象事業を見直し、利用しやすいように制度拡充を図る。未来人材育成奨学金返還助成支援事業およびインターンシップ支援事業は、説明先を県内の高校へも広げるとともに、事業の利用が図られるよう、支援対象業種の拡充を検討する。
- ③魅力ある商業地・商店街づくり
 - H30 年秋に街バルイベントを開催し、香南市のお店を広く PR する。
- ④空き店舗の活用
 - 住宅と併設されているため、所有者が売却や貸与を希望しない空き店舗が多い。HP への掲載だけでなく、中小企業庁の「施策マップ」や高知市が開設予定の「(仮) 出店サポート情報バンク」への登録を行い、事業の周知を図る。
 - 委員会で引き続き空き店舗対策を中心に調査研究を進める。
- ⑤新規企業の育成支援
 - 新たな立地企業に交流会への入会を勧めるとともに、引き続き懇談会を開催する。
 - HP への掲載だけでなく、中小企業庁の「施策マップ」への登録を行い、事業の周知を図る。また、H31 年度チャレンジショップ開設を目標に、地域の理解・サポート力を築くための説明会をかねた WS を実施する。

(2) 6次産業化による新産業の創出

- ①魅力ある新商品の開発
 - アドバイザーの導入による経営戦略の見直しと、店頭販売や販路拡大に向けた商品の PR、外商活動を強化するために必要な人材を確保する。(H30 年 4 月に 2 名雇用し、現在 8 人体制で運営) また、夏場の繁忙期や外販受注に備えて必要なアイスパーを確保するため、計画的な製造を行う。(目標 10,000 本)

平成 30 年度の新たな取組

- 拡充** ①香南市産業人材育成事業について、補助対象事業を拡大し、公的団体以外が実施する研修についても補助対象とする。
- NEW** ②市街地活性化と飲食店を中心とした PR・集客支援を目的とした街バルイベントを開催し、香南市の魅力をアピールする。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する。	
概要 目的	○観光のまちの育成では、観光地や施設を訪れた人が地域交流を楽しむ機会づくりや受入体制の充実、また、安心して楽しむための整備を推進するとともに、地域の情報発信力強化に取り組みます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
観光施設入込客数	93 万人	実績値 107.7 万人 目標値 120.0 万人	120 万人以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 観光施設入込客数 (暦年) H30 年 3 月末 107.7 万人
 ※対象施設…のいち動物公園、月見山こどもの森、ヤシパーク、絵金蔵、香南市サイクリングターミナル (宿泊以外)、天然色市場、やすらぎ市、あぐりのさと、アクトランド、黒潮温泉、土佐カトリッククラブ

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

🔄 観光施設入込客数は、目標 120 万人に対して 107.7 万人の実績。「志国高知 幕末維新博 (H29.3.4 開催)」にあわせ、H29 年 2 月に 100 万人から上方修正を行い、高い目標を持ってとりくんでいるが、本年度は目標達成には至らなかった。観光施設から周辺観光施設等へ周遊させることが課題となっている。

(3) 観光のまちの育成

① 観光・交流の拠点の場づくりと市民参加

🔄 ●物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川 DMO 協議会」へ引き継ぎ、3 市 (南国市・香美市・香南市) と 3 市の観光協会・商工会を中心に、物部川フェスタ 2017 を開催 (11/4) した。メイン会場 (物部川河川敷) の来場者 (物部川河川敷) は約 1,000 人、サブ会場 (南国市商工会館・三宝山・龍河洞) は 2,700 人と目標来客数 (5,000 人) には至らなかったが、ステージイベントやうまいもの市を通して、広く地域住民が交流できた。

② 情報発信手段の効果的な活用

🆕 ●外国人観光客受入環境の整備 (観光案内板等) として、のいち動物公園に多言語周遊観光看板、絵金蔵前にトイレの使用法説明版を設置した。また、看板ではないが絵金蔵に多言語対応の映像システムを設置。公衆無料 Wi-Fi は昨年度に 6 箇所 (のいち駅、ヤ・シパーク、絵金蔵、弁天座、サイクリングターミナル、天然色市場) で整備済。

③ 地域に親しむ観光の促進

●まちあるきガイドの案内体制が強化でき、現在 22 名の登録 (案内可能人数 6 名程度) がある。年間 16 回の受入を行い、ガイド技術のスキルアップと県内他観光ガイド組織との連携も図れた。
 (太平洋パノラマ、物部川フェスタ、大学生塩の道ガイドなど、高知県観光ガイド連絡協議会に登録)
 市内のまちあるき案内コースのマニュアル作成を実施し、ガイドスキルの底上げ、統一化を図った。

😊 ●ウォーキングコースは計画より早く 5 町各 2 コースの設定が図れた。
 ●サイクリングコースは、計画 1 コースに対し新規 2 コース (物部川三叉・羽尾方面) を追加し、サイクリング周遊マップをリニューアルした。

・サイクルツーリズムの推進のために地域おこし協力隊の新年度からの雇用が内定。
 ・環境整備として、サイクリングターミナルに案内板と標識を整備。サイクルオアシス (スタンド・空気入整備) をアクトランドと道の駅やす、のいち動物公園に整備。また、市内主要観光施設 (のいち駅・絵金蔵・大釜荘・海辺の果樹園 (2) 計 4 箇所 5 台) にスタンドを設置。
 ・サイクリングを中心とした地域間交流を図るイベントを開催。(12/10・12/17・1/28)
 ・レンタサイクルを 4 月～3 月の間に 2,060 人に貸出。(目標 1,800 人、114.4%)
 ・サイクリング専門委員会を開催。(1/30)

④ 活性化に向けたあらゆる産業との連携強化

😊 ●平成 29 年 10 月に作成した香南市ギフトカタログ通年号「まるごと旨市」では、目標の 36 事業所を上回る 42 事業所 (191 品目) を掲載し 10,000 部配布。また、年度末には 10,000 部を増刷。
 ※カタログ販売額は 71,520 千円。(内訳：ふるさと納税 68,611 千円、地場促進 3,077 千円)



2. 課題と今後の取組

ポスト維新博を見据え、地理的な強みを活かした体験等の磨き上げを行っていく。また、観光を軸にした各分野との連携を視野に入れ、特にスポーツと観光 (スポーツツーリズム) の連携に向けて、関係機関等との情報共有を図る。

(3) 観光のまちの育成

① 観光・交流の拠点の場づくりと市民参加

●来年度以降の同イベントの実施は未定だが、DMO 協議会を中心として「物部川フェスタ」、「おさかなクリスマス」などの 3 市合同イベントの流れを踏襲しつつ、協議会の目的に沿ったイベント等を開催する。

② 情報発信手段の効果的な活用

●引き続き、外国人観光客の受入環境の整備を実施するとともに、ターゲットを定めた観光紹介と商品 PR を行う。また、多言語対応パンフレット作成に取り組む。

③ 地域に親しむ観光の促進

●案内体制の目標を H31 年度に登録人数 37 人としていたが、案内可能人数の育成や人数増加が重要なことから、案内可能人数を目標数値 (H31 年度 26 人) として修正し、全員が案内できるようにする。また、合わせて登録人数も増やしていく
 ●香南市 5 町を巡るウォーキングコースの設定と設定コースを活用したウォーキングイベントを開催する。
 ●魅力あるサイクリングロードの設定は順調に出来た。また、開催されるサイクルイベントの内容も充実しており、県外からの参加者も増加、交流人口の拡大が図れた。今後は、地域おこし協力隊と一緒に安全・快適に楽しめる環境整備を進めるとともに、自転車の活用を促進できる人材を育成し、サイクルツーリズム (自転車での観光) に取り組む。
 ・H30 年度は、サイクルオアシス (スタンド・空気入整備) を市内主要観光施設 (動物公園・月見山等) にも整備が行えるよう管理者と協議を行う。
 ・地域間交流や世代間交流、健康づくりなどそれぞれのアプローチからイベントを開催する。また地域おこし協力隊と連携し情報発信を行う。加えてサイクルスタント設置の充実と環境整備を進める。
 ・サイクリング専門委員会と連携しながら、地域全体で盛り上がる体制づくりやサイクルツーリズム (自転車での観光) が推進できる組織体制づくり、サイクリングターミナルのリノベーション等の協議を行い、提案を行う。

④ 活性化に向けたあらゆる産業との連携強化

●カタログだけでなく季節のおすすめやキャンペーンチラシなどの簡易チラシを作成し、利用者の興味をひく工夫と香南市の地域資源 (商品) に接しやすい環境づくり、販路拡大に取り組む。また、一層生産者との連携を行い、カタログ登録事業所や掲載品目の増加を図る。



平成 30 年度の新たな取組

NEW ①大型クルーズ船などの外国人観光客の受入体制づくりとして、多言語対応観光パンフレット作成に取り組む。(観光誘客ツールの整備) (大型クルーズ船の誘客促進事業)

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する

※数値目標は、資料 3-5 と同じのため省略

基本的方向： (3) 分野を超えた産業間の連携を強化する

**概要
目的**

○6次産業化による地産地商の徹底では、生産物の出荷価格の維持、付加価値化による生産物の出荷価格の安定。食糧の安定供給、地場産品の生産の維持・継続を図ります。
○観光拠点形成とネットワーク構築では、地域資源の再発見を進めるとともに、各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光資源を点から面へと一体化した情報提供や、観光協会などの支援を促進します。
○産業人材の育成・確保では、ハローワークや企業など、さまざまな分野との連携を強化し、就労機会の拡大に努めるとともに、県と連携し産業振興等につながる人材育成の実施を支援していきます。

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

(1) 6次産業化による地産地商の徹底

①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充

●やすらぎ市、あぐりのさと、天然色市場などの直販所での集客数は 270,069 人。主力商品の定着、充実を図り、生産農家の所得向上に取り組んだ。目標の集客数(目標値 300,000 人)には至らなかった。

②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

●西川集落活動センターにおける新たなコミュニティビジネスの展開はできなかったが、高知大学地域協働学部の学生との連携により、西川地区の資源を活用した竹皿など竹細工の提案やたけのこ料理検討会、週末レストランの可能性を探るテストキッチンを実施。

(2) 観光拠点形成とネットワーク構築

①資源の再発見(価値化・付加価値化)

●新たな観光拠点の形成として、三宝山の観光拠点化に平成 25 年度より取り組み開始。本年度より土地及び建物所有者との使用賃借契約の締結(無償：H29.4/1~H34.3/31)を行い、市職員、県職員によるワークショップを 6 回開催。
また、運営事業候補者の公募を行い、5 事業者より応募、全ての事業者を運営事業候補者として選定。香南市三宝山観光拠点化基本計画検討委員会を開催(6 回)し、基本計画を策定。

②観光・交流の場づくり(地域住民参加)

😊 ●地域の特色を活かした祭りやイベントを開催し、68,000 人を集客。目標値(60,000 人)を上回る集客数と観光・交流が図れた。(4 イベント：どろめ祭り・絵金祭り・みなこい港まつり・冬の夏祭り)

③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築

😞 ●香南市観光協会が外国船観光客受入のために、プロモーション活動としてプレゼンに参加。年間 6 回を予定していたが、2 回しか出来なかった。

😊 ●年間を通して、市内の観光素材や伝統文化、案内人ガイドを活かした体験モニターなど 10 事業を実施。様々な地域で地元住民と観光客が接する機会を設けることができ、地域の活性化につながった。

④物部川流域 3 市での観光振興

●観光動態位置情報調査、ワークショップと家族層向けマーケティング調査、家族向けモニターツアーを実施。主要観光施設入込数の目標値を上方修正(目標値 665,200 人)し、745,319 人の集客があった。
物部川地域が、ミキハウス子育て総研(株)による「ウェルカムファミリーの観光地ものべがわ」エリアに認定(10/27)
○オフィシャルパートナー…のいち動物公園、創造広場「アクトランド」、道の駅やす/ヤ・シィパーク
○ウェルカムファミリー…大釜荘

物部川 DMO 協議会・ミキハウス総研



(3) 産業人材の育成・確保 (商工業分野と重複)

①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備

●香南市産業人材育成事業の補助金交付要綱の一部を本年度改正(講師招聘による市内開催研修を追加)し事業の拡大を図った。HP や企業、県内 3 大学への事業訪問、香南市香我美町立地企業交流会等で紹介し、目標 5 件に対し申請 1 件(問い合わせ 4 件)の実績。

🆕 ●香南市未来人材奨学金支援事業は、HP への掲載や市内対象業者、県内 3 大学を訪問して事業説明を行ったが、目標 10 人に対し、利用実績はなかった。(問い合わせ 2 件)

2. 課題と今後の取組

(1) 6次産業化による地産地商の徹底

①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充

●天然色市場の管理者が不在のため、4 月からの開設が出来ていない。管理者を早急に決定し、地場産品や加工品を販売し、集客を行う。
やすらぎ市、あぐりのさとにおいては、引き続き地場産品を活かした加工品の販売や一層の PR を行い、集客数増加及び売上増加につなげる。

②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援

●昨年度開発したみかんピューレを使った商品開発と、新たな商品開発に取り組む。



(2) 観光拠点形成とネットワーク構築

①資源の再発見(価値化・付加価値化)

●今後は、官民境界や敷地・施設計画、分割分担、ゾーニング、運営体制等の課題及び要件について、運営事業候補者との協議も含め精査を行ったうえで、実施計画を策定し、測量設計を実施する。翌 31 年度には工事を行い、32 年度のオープンを目指す。

②観光・交流の場づくり(地域住民参加)

●祭りやイベントの周知徹底を行い、更に地域住民の参加及び交流人口拡大につなげる。

③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築

●外国人等の興味等をリサーチするために、周辺の大学等の留学生を誘致しツアー等を行う。
●高知県観光説明会(商談会)等に参加し、旅行会社へのセールスを行い、香南市の知名度アップを図る。引き続き、各観光名所や地元住民等と連携した体験モニターを実施し、市の魅力発信や集客数拡大を図る。

④物部川流域 3 市での観光振興

●子育て家族層に加え、インバウンド向けの事業を実施するとともに、周遊促進を目的としたイベント等を開催する。また、6 次化関連の事業へも着手する。
HP や SNS を積極的に活用し、継続的に情報発信を行い、インターネットと現場を連動させて、訪来者属性等調査分析につなげる。

(3) 産業人材の育成・確保

①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備

●香南市産業人材育成事業は、来年度も補助対象事業の拡大を検討する。(公的団体以外が実施する研修についても補助対象とする。)
●香南市未来人材奨学金支援制度は、一層の広報活動と対象事業者への周知を行う。

平成 30 年度の新たな取組

🆕 ①香南市産業人材育成事業について、補助対象事業を拡大し、公的団体以外が実施する研修についても補助対象とする。

基本目標 2：新しい人の流れをつくる

基本的方向： (1) 移住のためのしくみづくり

- 概要
目的
- 情報発信や移住相談を推進します。
 - 若者の出会いの機会や情報交換ができる場づくりや交流事業を支援します。
 - 地域内で経済の好循環を生み出す取組みを推進します。
 - 県と連携した取組みを推進し、また「移住フェア」などを活用して移住の促進を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
社会増減	社会減	実績値 目標値 社会増 82 人 社会増 99 人	社会増 120 人以上
県外からの移住者	3 組	実績値 目標値 18 組 5 組	20 組以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 社会増 82 人 (転入 1,256 人、転出 1,180 人、転出取消 11 人) ※住基システム
県外からの移住者 18 組 (31 人) ※移住相談窓口を通して県外より移住

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

H29 年度は、82 人の社会増となった。また、県外からの移住者は、18 組 31 人が移住相談窓口を通して県外より移住を行っており、H28 年 9 月からの移住相談員配置の効果がでている。

(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり



- ①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信
 - 移住応援が「ドブック (香南住む〜ず)」を各種移住フェア等の説明会で活用し、年度末に更新。移住の HP「香南住む〜ず」のアクセス数は 49,825 回と目標を大きく達成しており、アクセス数の目標設定を 1,000 回から 4,000 回に上方修正した。移住促進プロモーションビデオが完成し、HPなどで一般公開中。
- ②若年層の交流・情報交換やイベント開催
 - 出会いの場の開催として、「香南市恋い・めぐりあい応援事業費補助金」を活用し、NPO 団体等が 2 回のイベントと婚活セミナーを開催。
- ③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援
(基本目標 4 の集落活動センター小さな拠点整備と同記載)
 - 西川地区集落活動センターでは 3 つの部会 (夢・支え合う・集う) を組織し、それぞれが活動計画を立て取組みを進めている。また、高知大学地域協働学部の学生も受け入れて、新鮮なアイデアでさらに地域を元気にしている。西川ジャムの販路拡大として、ふるさと納税返礼品の活用。

夢部会	たけのこを西川の新たな特産品にできないかとたけのこ料理の試食会実施 (5 月) 週末レストランの可能性を探るテストキッチンを実施
支え合う部会	西川地区の住民に対し事前アンケートやワークショップを実施し、ニーズにあったサロン会を実施 (4 月) あわせて苔玉づくり&大学生とのワークショップなどを実施
集う部会	定期的に西川に足を運んでもらうよう西川花公園で植樹祭を実施 (8 組参加)

- ④移住促進
 - 香南市ウエルカム移住・定住促進事業として、中山間地域をモデル地域 (香我美町西川地区) に移住希望者向けのお試し滞在住宅を 1 棟整備 (利用料 15,000 円/月) し、3 月から 2 ヶ月間入居。問い合わせ 6 件。また、同事業を拡充し、H28 年 11 月から市内全域を対象として空き家バンクの設置を行い、目標 5 棟 (延) に対し 18 棟 (延) の登録。18 棟の内 10 棟が売買、賃貸の契約済で、物件には空き家と分かるようにマークを掲示。あわせて、H30 年度以降の目標値の上方修正を行った。しかし、農地付き空き家の登録はなし。
 - 本年度新規事業の、空き家バンクへの登録を条件とした空き家改修補助は 1 件の実績。(目標 2 件)
 - 移住者への発信方法を見直すために、H30 年 1 月から市への転入・転出者に窓口アンケートを実施。
 - 窓口や電話、イベント等での新規移住相談は 144 件。イベントについては、次の県外移住相談会等に参加 (5 回)。
 - 高知暮らしフェア (24 組)
 - ふるさと回帰フェア (11 組)
 - 高知まんなか移住相談会 (8 組)
 - 高知暮らしフェア (28 組)
 - JOIN 移住・交流&地域おこしフェア (6 組)
 - 地域おこし協力隊として 4 月から 1 名 (西川集落活動センター)、10 月から 1 名 (鳥獣被害対策)、3 月から 1 名 (移住専門相談員) を雇用。加えて、3 名 (6 次産業化・サイクルーム・ふるさと応援寄付金) が内定。
 - 高知県版 CCRC 構想 (H28.7 月) の策定を受け、県移住促進課と情報共有など連携を行う。

2. 課題と今後の取組

高知県等が主催する県外移住相談会への参加をはじめ、広域で連携した移住ツアーなど、移住者を呼び込む事業を実施していく。また、他の分野 (産業・子育て・観光など) との連携を図り、一層移住・定住の仕組みづくりを進める。

(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり

- ①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信
 - 移住応援が「ドブック」の活用及び HP「香南住む〜ず」の内容を充実させ、飽きさせない市の魅力発信を行う。
- ②若年層の交流・情報交換やイベント開催
 - 活用しやすい補助事業となるよう補助対象事業の見直しと、継続して情報交換やイベント開催および支援に取り組む。また、市内の各団体等に対し、HP や広報を活用し補助事業の周知徹底を図るとともに、「高知で恋しよ!! 応援サイト」の応援団への登録を推進する。
- ③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援
 - 西川地区にとっても学生の新鮮なアイデアや意見に刺激を受けながら、各部会の事業計画に活かしたり、活動作業の手助けになったりと地域が活性化している。引き続き、学生と連携しながら新鮮なアイデアで地域を元気にしていく。また、センターの部会を強化するため、「夢」と「集う」部会の 2 部会に改編する。

夢部会	ジャム班	みかんを使った商品の販路拡大と新たな商品開発に取り組む。 また、動画で西川を PR するよう計画
	サロン班	更なるコミュニティ活性化を計るため、滞在型の交流スペースをつくる計画や空き家を利用した活動を企画
集う部会		西川地区の紹介冊子の制作と遊休農地が増えている現状から週末農業の企画や地元のものを生かしたアートづくりを企画・植樹祭を継続実施

- ④移住促進
 - お試し住宅については、利用促進を図るとともに利用者の移住につなげる支援、フォローを行う。空き家バンクの登録については、件数の増加に向けた掘り起こしのため、活用可能な空き家調査を行う。
 - 空き家改修補助は、補助金の拡大を行い、空き家バンク登録の増加をめざし一層の広報活動と周知を行う。
 - 窓口アンケートを分析し、補助金の PR や移住者への発信方法を見直す。
 - 県外移住相談会等に積極的に参加する。また、れんげいこうち (高知市) や近隣市 (南国市、香美市) と連携した広域的な取組みを継続する。
 - 地域おこし協力隊を継続して 3 名募集。※農業担い手 (ニラとみかんの 2 名) ・ヤシパルク周辺活性化 (1 名)
 - 庁内において CCRC 構想の理解を深めるため議論、勉強会を行う。

平成 30 年度の新たな取組

- 拡大** ①ウエルカム移住・定住促進事業費補助金を見直し、県外 U ターン者の引っ越し費用と高知市からの二段階移住者の空き家バンクへの登録物件への引っ越し費用の助成を、モデル地区から市内全域に拡大。
- 拡大** ②空き家改修事業費補助金に、耐震性のある空き家の軽微な修繕を追加・拡大。
- NEW** ③県外の若者が一定期間滞在し、香南市で働きながら暮らしを体験する **こうなんワーキングホリデー補助金** を新設。

基本目標 3： 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向： (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援	
概要目的	○香南市人生支援計画に基づき、若者の出会いの場づくりや子どもを安心して生み育てられる環境づくりなど、市民の人生をトータルでサポートする行政の体制づくりを目指します。 ○家庭・地域・学校の連携・協働を進めることで子どもから高齢者まで様々な人が参加・交流し、地域を活性化させ、子育てを中心とした地域社会のつながりの再生を促進します。安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備します。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
婚姻件数	144件	実績値 161件 目標値 150件	154件
合計特殊出生率	1.44	実績値 1.30 目標値 1.54	1.60

【直近の成果 (アウトカム等)】 婚姻件数 (人口動態調査) ※H28年1月1日から12月31日までの届出件数
 合計特殊出生率 (住民基本台帳) ※年度集計

1. 取組状況 (H29 年度) 平成 30 年 3 月末現在

婚姻件数は、161 件で目標値は達成。人口動態調査が根拠となり前年の暦年数値となるが、近年では多い件数である。また、合計特殊出生率は、1.30 と目標に届いていない。出生数も例年に比べると 2 割ほど少ない。(出生数：H26 年度 245 人、H27 年 (241 人)、H28 年度 (241 人)、H29 年度 (205 人))

(1) 人生をトータルでサポートする体制づくり

- ①ライフステージに応じた切れ目のない支援
 - 人生支援計画策定委員会を開催し、幼年期から高齢期までのライフステージの各段階に応じた切れ目のない施策をPDCAサイクルで評価し、次年度につなげている。
人生支援計画についての新事業・拡充事業を4件提案実施。(目標3件)
 - 人口減少問題を考える部会を3回開催。子育て支援や移住者増加に向けた施策について提案した。
 - 高知家健康パスポートを利用した、香南市のポイント制度「こうなん健康チャレンジポイント」の実施。市町村窓口でのパスポート発行者数は、本年度は1,258人で県内1番である。(H28年9月からは1,968人)。
香南市ギフトカタログで使用できるクーポン券を配布し、582枚(延186人)を発行。
 - 住居や引越費など結婚に伴う新生活を経済的に支援する、結婚新生活支援事業を実施。8件の実績(目標20件)。
- ②若者の出会いの場づくり (基本目標2の若年層の交流・情報交換やイベント開催と同記述)
 - 出会いの場の開催として「香南市恋い・めぐりあい応援事業費補助金」を活用し、NPO団体等が2回のイベントと婚活セミナーを開催。



(2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援

- ①子育てを支援する地域の育成
 - 学校地域支援本部設置事業は積極的に導入を進めており、設置数(6校)も目標値どおり。
- ②子育て施策の充実
 - 新生児・乳児家庭(生後4ヶ月までの乳児)への訪問は順調に実施し、延訪問率は98.1%となる。長期里帰り後の訪問実施や家庭の希望により来所来所対応を含めると100%面接対応している。
 - 地域子育て支援センターの利用者増加を目指し継続的に事業に取り組んだ。利用者(親子)は9,733人となり、目標(5,800人)を大きく上回った。
 - 市HPの子育て情報サイト「香南キッズ(子育て情報サイト)」へのアクセス数は4,328件(目標4,000件)。当初アクセス数は伸び悩んでいたが、メルマガ配信内容に「エプロンだより」と「すこやか通信」を入れることで登録者およびアクセス数が増加した。
 - 香南市ファミリーサポートセンター事業の会員数は52人で目標数値(50人)は達成しているが、新規会員の登録が少ない。(おねがい会員30人、まかせて会員25人、両会員1人、活動回数255回)
 - 不妊治療の助成として、一般不妊治療費助成事業(保険適用外の人口受精に係る費用の助成)を実施。7件に助成。(問い合わせ16件)
- ③多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充
 - 保育所での子ども一時預かりを継続して実施。預かり数は延1,217人(目標838人)で、目標を上回る利用者数となっている。(香我美おれんじ、夜須、赤岡の各保育所)
また、本年度から香南市立の全幼稚園でも「預かり保育事業」を実施。預かり数は延25,096人。
 - 放課後クラブの利用は375人(年間の平均月利用者数)で概ね計画どおりに事業を実施。(目標385人)

2. 課題と今後の取組

引き続き、人生支援計画を柱として、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるための施策を展開する。婚姻件数および合計特殊出生率の向上を図り、人生をトータルでサポートしていく。

(1) 人生をトータルでサポートする体制づくり

- ①ライフステージに応じた切れ目のない支援
 - 引き続き策定委員会を開催し、人生支援計画の通常施策・重点施策の進捗状況を管理する。
提案された新事業の充実と必要に応じて新たな事業の提案を行う。
 - 人口減少問題を考える部会を総合戦略企画会議に移行し、新たに人生支援計画推進分野別部会を設置する。部会ごとに世代に応じた施策の検討・協議を行う。
 - 「こうなん健康チャレンジポイント」の周知を行い、あわせて市民の健康意識の向上と健康行動の促進を図る。
 - 国の方針により補助対象者が34歳以下の夫婦に限定されたことから目標設定の見直し(10件)を行った。婚姻届提出時や後日郵送での案内を行なっているが、更なる周知徹底が必要。また、個別相談も受けているが、補助対象の要件や対象経費に該当しないことが多い。取り組みとして、定期的に未申請者に対し、個別案内を行なう。
- ②若者の出会いの場づくり
 - 活用しやすい補助事業となるよう補助対象事業の見直しと、継続して情報交換やイベント開催および支援に取り組む。また、市内の各団体に対し、「高知で恋しよ!! 応援サイト」の応援団への登録を推進する。

(2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援

- ①子育てを支援する地域の育成
 - 校長会等で学校の取り組みを紹介し、計画どおり導入校を増やす。
- ②子育て施策の充実
 - 引き続き、乳児家庭訪問はできるだけ生後1ヶ月まで、遅くとも生後4ヶ月までに実施を行う。
 - 地域子育て支援センターは、H31年度に総合子育て支援センターとして開設予定。これまでの子育て相談に加えて、病後時保育や子ども発達相談などサービスの充実が図れる事業内容や施設整備を行う。
 - 子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を今まで以上に多くの場で行う。また、関連する部署と連携し内容の充実に努める。
 - 新規会員の登録が行われるよう、ニーズを把握するため利用者や会員にアンケート調査及び分析を行う。また、他市と取り組みの情報収集・交換を行い、対策をたてる。
 - H30年度は申請件数を30件と見込んでいる。妊娠を望む方がスムーズに助成制度を利用できるよう、引き続き広報していくとともに、妊娠適齢期や不妊症に関する正しい知識の普及啓発を行う。
- ③多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充
 - 一時預かりのニーズは増加しており、今後も受入体制を整えていく。
 - 概ね計画通りに事業実施できており、今後も受入体制を整えていく。



平成 30 年度の新たな取組

- NEW** ①人生支援計画の中で**分野別部会(幼年就学期・成年熟年期・高齢期)**を新たに立ち上げる。
- 拡充** ②保育園・幼稚園(同時入所)の**第2子保育料を半額から無料**とする。



基本目標 4 : 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心な暮らしをまもる	
基本的方向 : (1) 協働のまちづくり推進 (2) 災害に強いまちづくり	
概要 目的	○地域コミュニティの維持や活性化を促進する、地域の仕組みづくりを支援していきます。 ○診断士を派遣し診断、耐震化のための工事費に対する補助金など、個人住宅の耐震化を促進するとともに、各地域の防災体制づくりのリーダー育成の研修など、地域の自主防災組織づくりへの支援、災害時の地域の支え合い体制の強化を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H29)	H31 年度末の目標
自治会結成率	協議会 47%	実績値 53% 目標値 68%	100%
	自治会 61%	実績値 90% 目標値 95%	100%
自主防災組織結成率	89%	実績値 90% 目標値 94%	100%

【直近の成果 (アウトカム等)】 協議会 10/全 19 組織 (53%)・自治会 86/全 96 組織 (90%)
自主防災組織 13,323 (自主防加入世帯) /14,702 (全世帯) (90%)

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

協議会は 10 組織 (加入率 53%) の現状維持だが、自治会は新たに 4 自治会が設立し、1 自治会が既存自治会へ編入したため、合計 86 組織 (90%) となった。

自主防災組織については、本年度 2 組織が新たに設立し、101 組織 (90%) となった。

両方とも、新たな組織の立ち上げはできたが、目標数値には至っていない。

(1) 協働のまちづくり推進

① 住民との情報交換

- 4 月 13 日から 5 月 19 日にかけて、市内 18 カ所で地区懇談会を開催。市民 315 人が参加。地区懇談会カルテ更新済。カルテ設置 14 ヶ所 (香我美 6 ヶ所、夜須、赤岡、吉川各 1 ヶ所、野市 5 ヶ所)

② 地域活動の支援体制強化

- 香南市地域活性化総合補助金事業を順調に実施。自治会等の役員を対象にした「香南市まちづくりセミナー2017」を高知大学地域連携協働学部と連携して開催。講演会 (6/16) とトークカフェ (7/1) を企画し、地域のつくり方や思いを伝えるキーポイントを参加者みんなで語り合うことができた。(参加者：講演会 145 人・トークカフェ 83 人)

(2) 災害に強いまちづくり

① 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

- 市広報や自主防災組織研修会などで制度の PR を実施し、94 件の耐震診断を実施。(目標件数 120 件) 新聞広報やテレビ CM などでも使い広く周知を図っているが、目標件数には至らなかった。
- 備蓄について食料、水の本年度分の整備は完了し、目標値 (72.0%) を上回る 83.3% の備蓄率となる。また、備蓄倉庫についても野市町 (こうなん給食センター西側) に整備を完成。

② 自主防災組織の設立・活性化

- 自主防の活性化について、県主催のリーダー育成研修、防災士研修、シンポジウム等への各種参加案内を通知している。研修会には 10 組織しか参加できてなく、目標達成 (41 組織) には至っていない。

③ 災害時における地域の支え合いづくり

- 避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援プラン (個別計画) 作成対象者 (853 名) からの情報提供に関する同意書の取得に努めたが、回収率が伸びなかった。個別計画の作成は 1 件で前年度とあわせ 2 件である。

④ 消防・防災対策の強化

- 県下一斉の避難訓練に合わせ、市の総合防災訓練を野市小学校グラウンドにおいて実施 (11/5)。参加者は目標人数 6,700 人に対し 3,996 人と例年以上に少なかった。また、高知県シェイクアウト訓練に合わせ、市内一斉のシェイクアウト訓練を実施。



2. 課題と今後の取組

目標値を目指して自治会や協議会、自主防災組織設立の取り組みを進める。未設立地域では、住民説明会などを通じ、設立に向けた話し合いを担当課および地区担当職員と一緒にやる。

(1) 協働のまちづくり推進

- ① 住民との情報交換
 - 地区懇談会での意見や要望、提案は、内容を確認のうえ要点をまとめ、地区懇談会カルテとして主要な公民館等に質問内容・当日回答・後日対応などを記載したものを設置している。また、住民の参加者数が減少傾向にあるため、H30 年度から開催方法の見直しを行い、市主催分と地域主催分を開催。
- ② 地域活動の支援体制強化
 - 引き続き、香南市地域活性化総合補助金事業の活用を周知し、自治会活動の支援を行う。また、自治会等の役員会に担当課や地区担当職員として行政職員も参加し、活性化の助言等を行う。

(2) 災害に強いまちづくり

- ① 耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実
 - 住宅所有者の負担軽減のため木造住宅耐震設計補助金を昨年度より 10 万円上乘せ (合計 305,000 円) し、耐震化を進めている。引き続き制度の周知を行うとともに、耐震診断後の改修工事まで進むよう、住宅耐震化の重要性を周知していく。
 - 引き続き、備蓄品等の整備を行う。
 - ② 自主防災組織の設立・活性化
 - H30 年度より連携中枢都市圏の連携事業として「防災リーダー育成事業」がスタートするので、その事業も活用しながら、高知市と連携し、防災研修への参加機会を増やし啓発していく。
 - ③ 災害時における地域の支え合いづくり
 - 引き続き人員体制を整え、残りの同意の確認と個別計画の作成に地域の自主防災組織や協議会、自治会及び民生委員自動委員の協力を得ながら取り組む。
 - ④ 消防・防災対策の強化
 - 一層住民に対し、訓練の重要性や防災意識の高揚を図る。
- 津波浸水区域においては、安全かつ迅速な避難を可能にするため避難誘導標識を整備する。また、自主防災組織の倉庫等資機材の整備充実を図るため、再整備に係る補助金を拡充する。

平成 30 年度の新たな取組

- ① 日程の決まった地区別懇談会に市民が参加するのではなく、地域の希望日に懇談を行うよう **地域主体の地区別懇談会を開催し**、市政への関心を高めていく。(従来の市主催も各町 1 カ所開催)
- ② 住民が学べる機会を増やすことを目的として、自治会・協議会を対象に、市職員が講師となり市の取り組み等を説明する **香南市出前講座**を開催する。
- ③ 津波浸水区域において **避難誘導標識**を整備する。
- ④ 自主防災組織への再整備に係る **資機材整備補助金**を拡充し、避難場所の倉庫等資機材の充実を図る。

基本目標 4： 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心な暮らしをまもる

※数値目標は、資料 3-9 と同じのため省略

基本的方向： (1) 交流人口拡大 (2) 大学との連携

概要 〇地域と協働し、活動拠点としての集落活動センターの運営体制や組織の強化を図ります。また、歴史・食・体験などの地域資源活用など、交流人口の拡大のための拠点づくりや強化を進めます。
目的 〇香南市の中山間地域の再生と持続可能な地域の構築に向けて、地域の活性化と振興に寄与する事業推進のため大学と連携し、多様な分野で事業に取り組みます。

1. 取組状況 (H29 年度)

平成 30 年 3 月末現在

(3) 交流人口拡大

①集落活動センター(小さな拠点整備)

(基本目標 2 の産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援と同記載)

- 西川地区集落活動センターでは 3 つの部会(夢・支え合う・集う)を組織し、それぞれが活動計画を立て取り組みを進めている。また、高知大学地域協働学部の学生も受け入れて、新鮮なアイデアでさらに地域を元気にしている。西川ジャムの販路拡大として、ふるさと納税返礼品の活用。

夢部会	たけのこを西川の新たな特産品にできないかとたけのこ料理の試食会実施(5月)週末レストランの可能性を探るテストキッチンを実施
支え合う部会	西川地区の住民に対し事前アンケートやワークショップを実施し、ニーズにあったサロン会を実施(4月)あわせて苔玉づくり&大学生とのワークショップなどを実施
集う部会	定期的に西川に足を運んでもらうよう植樹祭を実施(8組参加)

- 新たな集落活動センター設立に向け 2 地区と協議中。(本年度未設立) 設立後の運営に関わる組織の立ち上げを支援。
「岸本地区」…各自治会(6ヶ所)に「集活センター」の説明を実施。立上げに向け準備会に参加し、H31 年度の設立に向け協議中。
「山南地区」…まちづくり協議会の役員会で「集活センター」の説明を実施。地域で集活に向けたアンケートを 12 月に実施し、アンケート結果をまとめた。

②地域団体の活動促進、支援充実

- 地域活動団体の育成に向けた取り組みを行っているが、今年度の補助金の交付団体はなし。

③歴史・食・体験等による交流人口の拡大

- 観光施設連絡会(香南市観光クラスター協議会)を開催(4回)し、歴史資源の磨き上げや観光クラスター形成に向けた協議を行った。また、維新博補助金を活用し、絵金蔵映像システムのリニューアルやタブレットを活用した多言語解説システムを導入。アクトランドでは、多言語対応HPの作成や周遊パンフレットのリニューアルを実施。

また、観光客向けのアンケートを作成し、観光客の実態や需要を把握する仕組みを構築するとともに、県市協働により地域会場メインのPDCAシートを作成した。

- ・絵金蔵入館数(目標:博覧会開催期間中 12,000 人、H28.3/4~ 12,980 人)
- ・アクトランド入園数(目標:博覧会開催期間中 130,000 人、H28.3/4~ 83,790 人)

〔参考:アクトランド有料入館者数 12,614 人(対前年比 123%)〕

(4) 大学との連携

①大学との連携

- H27 年度から高知大学地域協働学部と連携し、上記①に記載のとおり、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行っており、延 240 人の学生が参加し活動を行っている。学生の企画提案では、週末レストランの可能性を探るためのテストキッチンや西川パンフレットの作成、冬のキャンドル茶会、健康秘訣教室、西川冬祭り、防災フェスタなどを開催。

- 平成 29 年度高知大学出前公開講座を 9 月より全 5 回で開催し、述べ 130 名の受講生が参加した。自治会等の役員を対象にした「香南市まちづくりセミナー2017」を高知大学地域連携協働学部と連携して開催。講演会(6/16)とトークカフェ(7/1)を企画し、地域のつくり方や思いを伝えるキーポイントを参加者みんなで語り合うことができた。(参加者:講演会 145 人・トークカフェ 83 人)

2. 課題と今後の取組

(3) 交流人口拡大

①集落活動センター(小さな拠点整備)

- 西川地区にとっても学生の新鮮なアイデアや意見に刺激を受けながら、各部会の事業計画に活かしたり、活動作業の手助けになったりと地域が活性化している。引き続き、学生と連携しながら新鮮なアイデアで地域を元気にしていく。また、センターの部会を強化するため、「夢」と「集う」部会の 2 部会に改編する。

夢部会	ジャム班	みかんを使った商品の販路拡大と新たな商品開発に取り組む。また、動画で西川をPRするよう計画
	サロン班	更なるコミュニティ活性化を計るため、滞在型の交流スペースをつくる計画や空き家を利用した活動を企画
集う部会		西川地区の紹介冊子の制作と遊休農地が増えている現状から週末農業の企画や地元のものを生かしたアートづくりを企画・植樹祭を継続実施

- H31 年度の設立に向けて地元と協議を行い、継続して説明会や関係団体の育成に努める。

②地域団体の活動促進、支援充実

- 引き続き交流人口の拡大に寄与する活動団体の掘り起こしや、事業の啓発等を行う。

③歴史・食・体験等による交流人口の拡大

- 維新博の効果で一部観光施設への入込客数は増加したが、その施設から周辺観光施設等へ周遊させることが必要。作成した観光客向けの周遊アンケートを活用し、観光客の実態、需要を把握したうえで周遊促進を行う。あわせて、H31 年 2 月から廃止予定の「ポスト維新博」を見据え、自然体験等の磨き上げを行うとともに、磨き上げた自然体験などに歴史や食を絡めた観光クラスターの形成に取り組む。また、作成した地域会場メインのPDCAシートの活用と、引き続き、年間を通じた企画展やイベント等の開催と、周辺観光施設等と連携したイベント等を開催し、集客数の維持を図る。

(4) 大学との連携

①大学との連携

- 西川地区集落活動センターでの継続した取り組みを行う。また、引き続き学生からの地域の課題解決に向けたアイデア(企画提案)を実現に向けて取り組む。
- 高知大学出前公開講座・まちづくりセミナー、ともに継続して実施する。

平成 30 年度の新たな取組

- NEW ①西川地区の PR パンフレットを作成し、交流人口を増やす。(A4 見開き 12P・約 2000 部)

